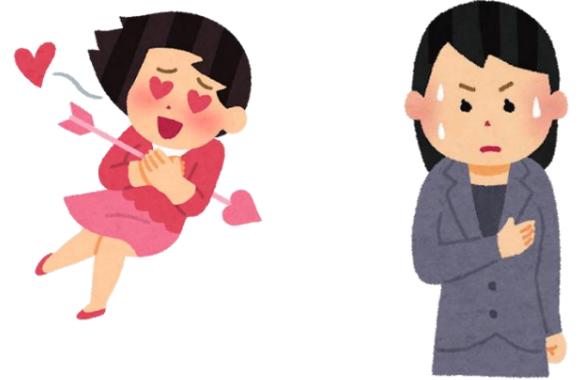


心理学科

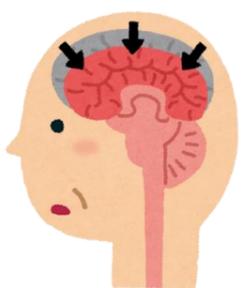
こころについてのエッセイ①

「こころ」はどこにある？

皆さん、「こころ」というのはどこにあると思いますか？この質問を、私は、川村学園女子大学心理学科に入学してきた学生さんたちに、いつもして来ました。半数以上の方は、胸を押しえられます。そうですね、「心臓」。まさに「こころ」と書きますよね。ときめいた時には胸が「キュン」となったり、緊張したりすると「ドキドキ」したりします。大昔から、ここを一突きされると、赤い鮮血がどっと流れ、絶命することが経験的に知られて来たので、「心の臓」などと命名されたのでしょう。



しかし、今では、「こころ」すなわち「感情」のおおもと（心理学では「情動」などと呼びます）は、脳の「扁桃体」というところで生起しているということが解ってきています。脳の中央やや前部の両側に、アーモンドぐらゐの大きさの神経核があります。それが扁桃体です。こんなところで、ひとは「好き」だの「嫌い」だのといったことを感じているのですよ。そのすぐ後ろには「海馬」があります。そうです、アル



ツハイマー病で一番始めに萎縮して来る場所で、「記憶」に関連する重要な部位ですよね。「情動」と「記憶」には、とても深い関係があります。一度、嫌なことを経験・記憶してしまふと、その時の「嫌な」感情も、強く「こころ」に残ってしまいます。心理療法というのは、このように刻み込まれてしまった、ひとの「こころ」を治療して行くのです。一体、どんな治療をするのだろうか？興味ある方は、是非、本学心理学科で「心理学」を様々な角度から学んでみて下さい。皆さんのご入学、「こころ」より、お待ちしております。